

# 調査結果と児童生徒を結び付けた 授業改善のための分析の視点

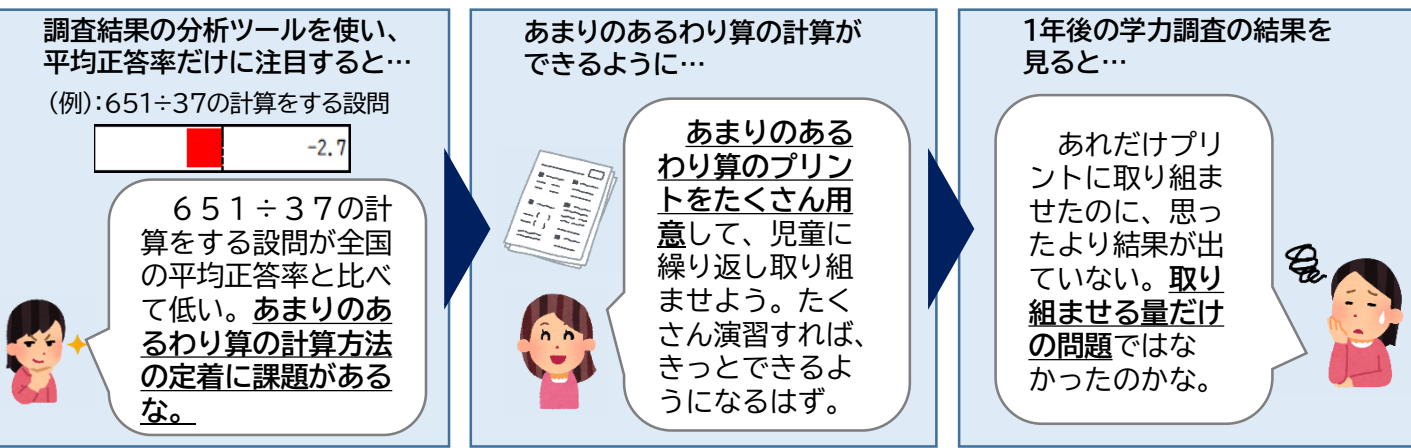


©県「ももっち・うらっちと仲間たち」

全国及び県の学力調査の結果が公表され、学力向上担当者の方は自校の結果を分析し、2学期からの授業改善に向けた取組を考えているところだと思います。今号では、**自校の児童生徒の実態に応じた授業改善が進むよう、分析の視点**の例を紹介します。誰一人取り残すことがない取組を行うための参考にしてください。



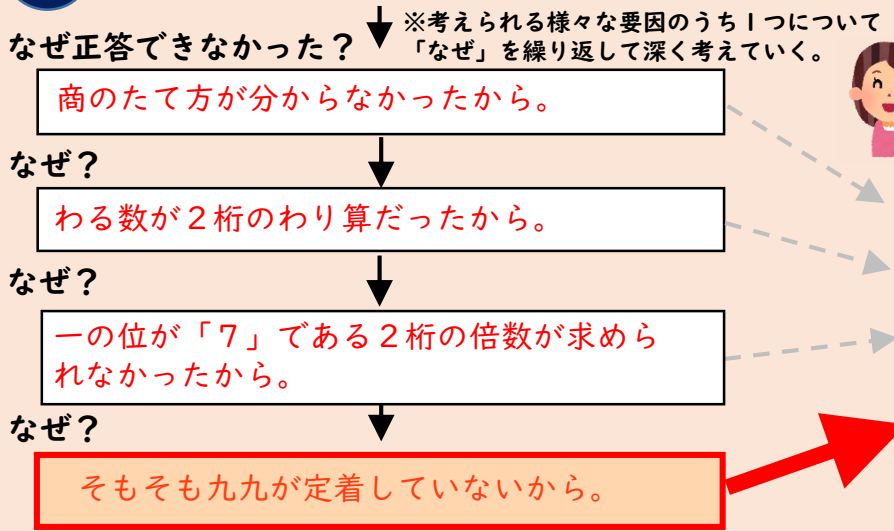
次のような分析→取組→検証のサイクルになっていませんか？



「正答率が低い」ということだけに注目しては、本質的な課題解決にならないこともあるよ。「なぜこの問題に正答できなかったか」に目を向けて児童生徒がつまづいている要因を分析し、自校の児童生徒の課題を明確にすることが大切だね。

## 例

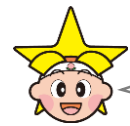
「 $651 \div 37$ 」の計算をする。



洗い出した要因の中からまず「九九」にターゲットをしばると、どんな手立てが考えられるかな。

**【手立て】**  
九九の振り返りプリントやA Iドリルを活用して、**誰がどこ**につまづいているのかを把握する。  
九九の定着が不十分な児童には、九九を使う問題に取り組ませる。

※これ以外にもS-P表や誤答分析、無回答率に注目することも考えられます。



ぜひ一度、全国の平均正答率との差が大きかった設問を一つ取り上げ、そして、**なぜ正答できなかったか要因を深く考えて**みましょう。その中から本質的な課題解決につながるものを焦点化して、学年や学校全体で取組を進めましょう。

### 【全国の平均正答率との差が大きかった設問】

年生の	設問番号	設問の概要

設問番号

設問の概要

なぜ正答できなかった？

[Blank box for reflection]

なぜ？

[Blank box for reflection]

なぜ？

[Blank box for reflection]

なぜ？

[Blank box for reflection]

【手立て】

